

事業名	文化財保護事業
-----	---------

総事業費	2,894 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	郷土の宝である文化財の保存保護を図るため、調査・普及啓発に取り組み、文化財を後世に残し伝えていく	
事業の実績と成果	取組内容	文化財の調査・保存保護・活用全般について、幅広い取組を展開している。
	成果	未指定文化財について専門家による調査を行い、保存保護・文化財指定への取組を継続的に進めている。鉄砲館での文化財資料の展示、指定文化財説明看板の設置、文化財紹介の講話、文化財絵画コンクール等を積極的に行いながら住民の文化財に対する意識高揚を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	文化財保護事業は、事業の幅・量とも膨大であり、優先順位を定めながら事業展開している。人員増と専門職員の配置が必要。
評価結果の根拠及び今後の課題 (担当課長記入)	文化財保護事業は多岐にわたり年々事業量は増加しているが、概ね当初の計画どおり事業の実施ができた。今後も文化財の調査や保護の充実に努め、特に重要なものは積極的に文化財指定を行い保護を図る必要がある。少子高齢化や世代交代により文化財の保存や継承の問題が急速に進んでおり、新たな保存継承のあり方を検討していく必要がある。寄贈資料や収集した文化財資料が増加しており、保管場所の確保が大きな課題である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	文化財の調査・保存・活用全般について、状況を見極めながら、幅広い取組を展開する。
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	文化財絵画コンクール作品展

事業名	種子島家住宅保存活用事業
-----	--------------

総事業費	4,218 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	①指定管理者制度のもと、一般公開を図りながら、重要な文化財として保存・保護を図る ②文化財の大切さや種子島(郷土)の歴史・文化に対する認識・興味を高める	
事業の実績と成果	取組内容	指定管理者制度のもと、一般公開を実施。なお、10月以降は耐震対策改修工事のため休館し、一般公開も同時に停止。 指定管理者との連携。3万円を超える修繕の実施。シロアリ駆除、浄化槽の維持管理。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理団体と連携を図り、住宅の保存公開活用を図った。10月から休館するため、それまでの間に備品等移管作業を行わなければならなかったが、搬出工程等をお互いに確認し、スムーズな搬出ができた。 入館者は、上半期のみの実績となるが、対前年度比で337人の増であった。コロナが5類感染症に移行し、緩和措置されて以降、入館状況は順調な回復傾向にあったといえる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	指定管理団体の高齢化・会員数の減が、引き続き懸念事項である。耐震対策改修工事に伴い、しばらく活動が手板することも危惧されるため、敷地内外の環境整備やおもてなし研修の充実(島内の歴史や文化をあらためて訪ね、語り継いでいくべき歴史内容を再確認する研修などを実施)を図るなどして、引き続き安定した確保に努めるよう求めていく。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	月窓亭は改修工事のため令和6年10月から当面の間休館となったが、休館前の入館者はコロナ禍前へ回復傾向にあり、住宅の維持管理や活用も指定管理者により適切に行われていた。今後は休館中の住宅や駐車場の維持管理に係る清掃など、指定管理者と協議を行い適切に実施する事。休館中に工事の様子を一般公開する予定であり、工事業者の協力を得ながら実施する事。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	文化財建造物としての保存活用の充実を図るため、耐震対策改修工事を実施する。 工事期間中における修理状況をSNS等を活用し、定期的に公開するなどして、文化財に対する市民の保護意識向上の取り組みを行う。
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	民俗行事の再現 (種子島 昔のひなまつり)

事業名	旧上妻家住宅保存整備活用事業
-----	----------------

総事業費	1,053 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	住宅の管理(現状を維持する)	
事業の実績と成果	取組内容	旧上妻家住宅修理方針検討委員会開催、専門家等による調査の実施、敷地内及び住宅の現状維持(清掃)、上妻家史料の調査、整理、公開。
	成果	昨年度の専門家による調査や修理方針検討委員会での協議で、住宅の文化財的価値がさらに高まったことから令和6年9月住宅と門は国登録文化財から市指定文化財となった。同時に上妻家史料のうち2件を新たに市指定文化財とした。修理方針検討委員会での協議で住宅や敷地内の修理工改修方針を定めた。定期的な清掃を実施し住宅敷地内の維持管理が図られた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	今後実施する住宅の解体工事で新たな発見等があった場合、修理工改修計画の見直しが必要となり修理方針検討委員会で慎重に検証していく必要がある。上妻家史料は引き続き整理作業を行ない、特に重要なものは市文化財指定を行う。史料の適切な保管場所の確保が必要。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	当初の計画どおり事業は行われている。対象が文化財建造物であるため、事業実施には文化財建造物専門家や他部署の協力なしでは実施が難しいため、これまで以上に連携しながら取り組む必要がある。修理工改修計画では建築用語や修理工改修図面、建築基準法など専門性の高い協議内容であるため、担当職員の資質の向上が必要である。上妻家史料は引き続き整理作業を進め、文化財的価値が高いものは文化財指定を行なう。上妻家史料を市民へ周知するため、史料の公開を積極的に行う。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	修理工改修計画での協議内容を基に、住宅及び外構の修理工改修計画を検証していく。新たに住宅の工事等の様子を撮影しながら記録保存を図る。市民をはじめ多くの人に住宅への興味関心を持たせるため。撮影した動画は公開し普及啓発を図る。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	住宅専門調査

事業名	文化財保存活用地域計画策定事業
-----	-----------------

総事業費	390 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	課題を把握し、その解決策を踏まえた、保存と活用の計画を策定する	
事業の実績と成果	取組内容	協議会開催(台風の影響により、会議は中止とし、紙面決議に変更実施)、データの再整理(協議会委員等の指摘等を踏まえ)、地域計画(案)の執筆、文化庁協議、庁内会議、パブリックコメントの実施、認定後の公表(市HP掲載)及び協議会委員への報告、概要版の作成
	成果	文化庁長官の認定を受けるまでの期間がタイトであり、各方面からの指摘事項も多く、間に合うかどうか不安であったが、文化庁担当調査官をはじめ係スタッフの協力を得て、12月20日付けでようやく認定された。本計画策定事業を開始してから6年越しであった。今後は、この計画に基づき、文化財の保存・活用を推進していくこととなる。

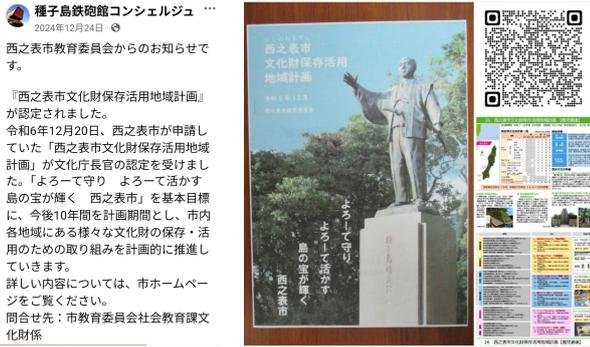
③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	計画策定以降、何らかの理由により変化が起き、現状、計画の内容にそぐわない文化財等が一部でてきている。そういったケースについては、事前に文化庁と確認しており、都度修正して構わないとのことであった。今後も文化庁の指示のもと、適切な時に適切な処置を講じることとしたい。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	令和6年12月、市文化財保存活用地域計画を策定した。今後は計画の概要版などを作成しながら市民への周知を図り、計画を着実に実施していく。また、計画内容の改定が必要になった際は、文化庁や県教委と協議をしながら、速やかに計画の改定に着手していく。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	今後は、計画に定める基本方針及び具体的な取組みに基づき、文化財の保存・活用を推進していく。なお、計画策定業務終了につき、2024年度で本事業を完了とする。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
 <p>種子島鉄砲館コンシェルジュ ... 2024年12月24日</p> <p>西之表市教育委員会からのお知らせです。</p> <p>『西之表市文化財保存活用地域計画』が認定されました。</p> <p>令和6年12月20日、西之表市が申請していた「西之表市文化財保存活用地域計画」が文化庁長官の認定を受けました。「よろうて守り よろうて活かす 島の宝が輝く 西之表市」を基本目標に、今後10年間で計画期間とし、市内各地域にある様々な文化財の保存・活用のための取り組みを計画的に推進していきます。</p> <p>詳しい内容については、市ホームページをご覧ください。</p> <p>問合せ先：市教育委員会社会教育課文化財係</p>	<p>SNS(フェイスブック)や市HPによる市民等への「西之表市文化財保存活用地域計画」認定についての周知</p>

事業名	旧上妻家住宅公開整備事業
-----	--------------

総事業費	50,214 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	住宅の適切な保存、公開活用を図る	
事業の実績と成果	取組内容	再編交付金交付申請(九州防衛局との協議)。住宅の修理改修に伴う調査、住宅実施設計の作成、外構の調査。調査状況の一般公開。
	成果	再編交付金を活用し、住宅の修理改修のための調査を実施し実施設計を作成した。外構の改修のため調査を実施した。調査の状況を市民へ公開し、住宅の普及啓発が図られた。住宅や門は調査で新たな文化財的価値が確認されたため、令和6年9月国登録文化財から市指定文化財とした。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	対象が文化財建造物のため、修理改修に際しては専門家の指導助言を要する。今後の修理改修工事の段階で住宅の部材や構造などに新たな発見があった場合、事業計画の見直しが必要となる。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	当初の計画通りの事業が実施された。対象が文化財建造物のため専門家の指導助言や図面の精査などに時間を要するが、引き続き関係部署と連携を取りながら進めていく。事業計画の立案や専門家との協議では、建築の専門用語や建築基準法の取り扱いなど専門性が求められるため、担当職員の資質の向上が必要である。事業費は再編交付金事業を予定しており、交付申請書類の提出に向け事業計画等について九州防衛局との協議を進めていくこと。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	文化財建造物の安心安全な公開活用に向けた修理改修の実施。住宅の普及啓発。
------------	--------------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	実施設計作成に係る調査のための足場設置

事業名	市内遺跡発掘調査等事業
-----	-------------

総事業費	986 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	遺跡の性格・位置づけを調査し、郷土の歴史を明らかにしながら、郷土の宝として後世に伝えていく	
事業の実績と成果	取組内容	発掘調査の実施(旧上妻家住宅敷地内)、未整理遺物の整理作業
	成果	発掘調査を実施することにより、新たな情報を得ることができた。市内で表採された遺物の整理作業を行い、遺物の精査分類等ができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	なし
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	当初の計画どおり発掘調査を実施した。学術的な発掘調査を継続的に続けていくことは、本市の歴史の解明や埋蔵文化財の保存保護、担当職員の資質の向上につながる。事業量を調整しながら引き続き市内遺跡の発掘調査を続けながら、各種開発事業に伴う緊急の発掘調査にも備えておくこと。未整理の遺物は年次的に整理作業を進めていくこと。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	発掘調査地の選定、発掘調査の実施。市内遺跡から出土した未整理遺物の整理作業、公開。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	遺物整理作業

事業名	発掘調査(県営農政事業:西之表創生地区)
-----	----------------------

総事業費	2,905 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	埋蔵文化財と開発事業の調整を図る	
事業の実績と成果	取組内容	整理作業の実施及び報告書の刊行。事業主体者である熊毛支庁農林水産部農村整備課との協議(整理報告書作成作業に係る予算措置、作業期間の調整)
	成果	当初の計画通り出土遺物の整理作業を行い、報告書を刊行した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	事業主体者である熊毛支庁農林水産部農村整備課と事業費や作業内容などの綿密な協議を要する。発掘調査に係る一連の業務は専門性が高いため、従事する職員の配置や育成が必要。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	当初の計画どおり整理作業を実施し、発掘調査報告書を刊行した。遺跡の発掘調査から報告書刊行までは業務に従事する期間は複数年に及び極めて専門性が高く、従事する職員の配置や育成が必要である。また整理作業に従事する会計年度任用職員についても業務内容を熟知し、遺物の実測作業などを適切に行える人材の確保や育成ができないと、報告書刊行のための整理作業に大きな影響が生じるなどの課題がある。周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)である場所で掘削を伴う工事を行う場合、工事着手前に必ず発掘調査が必要であり、遺跡の数は毎年増加している。(R7.4.1現在:137件)

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	事業完了に伴う休止
------------	-----------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	報告書作成に係る出土遺物整理作業

事業名	種子島家住宅耐震事業【再編交付金】
-----	-------------------

総事業費	29,040 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	本市の歴史にとって重要な文化財(市指定文化財種子島家住宅)の保存活用のため、調査を行い、市民に対し文化遺産を広くPRすることで、教育や文化の振興を図るものである。	
事業の実績と成果	取組内容	市指定文化財種子島家住宅の保護のために調査や素屋根の設置・屋根瓦の撤去を行った。
	成果	住宅の耐震や保存のための調査が適切に実施された。詳細な調査や工事を実施するために素屋根を設置し、住宅の保存を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	なし
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	当初の計画通り事業を実施することができた。今後は対象が文化財建造物であり工事や調査で新たな発見等があった場合、専門家の助言を得ながら適切に保護のための改修計画の見直しを行う必要がある。事業費は再編交付金を予定しており、九州防衛局へ事業計画、事業内容の説明や協議が必要。改修工事の様子を市民へ公開し、文化財保護の周知を図る。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	文化財建造物の保存保護及び安心安全な一般公開に向けた改修復元工事を行う。
------------	--------------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	素屋根設置 (瓦葺解体完了)

事業名	文化財看板多言語化事業【再編交付金】
-----	--------------------

総事業費	20,130 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化愛保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	本市の文化財の保存活用のため文化財看板の多言語を行い、市民をはじめ多くの人に対し本市の文化遺産を広くPRする。	
事業の実績と成果	取組内容	再編交付金交付申請、資料収集・整理、外国語コンテンツ作成(5言語)、音声データ収録編集(5言語)、QRコードシート作成 QRコードシート看板貼付け、データ管理サーバーの管理
	成果	65基の文化財看板の多言語化(英語・中国語・広東語・韓国語・ポルトガル語の5言語)を実施した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	多言語化に際して文化財専門用語の翻訳、翻訳原稿の作成、データ管理サーバの構築など受託業者との綿密な協議が必要。多言語化看板の利活用を図るため、様々な活用手法の検討。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	当初の計画どおり、65基の文化財看板の多言語化を実施した。R7年度は70基の文化財看板の多言語化を行い、令和5年度から行っている文化財看板全267基の多言語化が図られることになる。今後の課題は多言語化看板の利活用の促進や利用状況の検証、QRコードシート状態の定期的な確認作業などがある。事業費は再編交付金を予定しており、九州防衛局との協議を要する。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	70基の文化財看板の多言語化を実施。(対象:安城・古田・立山・中割・住吉・国上・伊閑・安納・現和・榕城校区) 文化財看板の普及啓発、関係機関と連携した活用の促進。
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	多言語化データ精査(65件×5言語)

事業名	種子島家墓地調査事業【再編交付金】
-----	-------------------

総事業費	5,169 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	文化財保護の充実・活用

② 実施 (Do)

事業の意図	本市の歴史にとって重要な文化財(市指定文化財種子島家墓地)の保存保護活用のため、調査を行い、市民に対し文化遺産を広くPRすることで、教育や文化の振興を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	再編交付金交付申請、墓地の平面測量、墓地及び周辺の地形測量、墓地内石造物配置図の作成、墓石の清掃、墓石カルテ作成、墓石実測 空中写真撮影、調査状況報告書作成、説明会の実施
	成果	御坊墓地の調査を行い、保存・活用のための基礎資料を得ることができた。調査状況を公開することで市民へ文化財を広くPRすることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	専門性の高い業務のため業務に対しての適切な判断や、受託業者へ調査内容についての確かな指示を行う職員の配置、育成。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	当初の計画通り、御坊墓地の調査を行った。調査状況を市民へ公開し郷土の文化財の普及啓発を行った。令和7年度は「種子島家墓地(御拝塔墓地・御坊墓地)」として、調査の成果をまとめた調査報告書を刊行し、種子島家墓地の記録保存を図る。調査結果に基づき、保護の方針を検討しながら、市民に対し文化財を広くPRしていく。専門性の高い業務であり、業務に対する適切な指示や判断を要することから、職員の資質の向上が必要。事業費は再編交付金を予定しており、九州防衛局との協議を要する。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	引き続き種子島家墓地の調査を進め、調査の成果をまとめた調査報告書を作成する。調査の成果を広く市民に公開しながら、今後計画する墓地の保護事業への基礎資料とする。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	御坊墓地UAV(ドローン)測量作業